

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 5 区分  
 【発行日】平成31年4月25日 (2019.4.25)

【公開番号】特開2016-191186(P2016-191186A)  
 【公開日】平成28年11月10日 (2016.11.10)  
 【年通号数】公開・登録公報2016-063  
 【出願番号】特願2016-67271(P2016-67271)  
 【国際特許分類】

D 0 1 F 8/06 (2006.01)

D 0 4 H 1/4291 (2012.01)

【 F I 】

D 0 1 F 8/06

D 0 4 H 1/4291

【手続補正書】  
 【提出日】平成31年3月15日 (2019.3.15)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 3 1  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 3 1】

本実施形態の複合繊維は、第 2 成分が繊維の周面の長さに対して 20 % 以上の長さで露出している断面構造を有することが好ましい。そのような断面構造として、第 1 成分が芯成分、第 2 成分が鞘成分であって、第 1 成分（芯成分）の重心位置が繊維の重心位置からずれている偏心芯鞘型断面、および第 1 成分と第 2 成分とが貼り合わされたサイドバイサイド型断面（「並列型断面」ともいう）が挙げられる。そのような断面構造によれば、収縮性に優れ、かつ捲縮発現性に優れた複合繊維を得ることができる。

熱収縮性複合繊維が、偏心芯鞘型複合繊維である場合、第 1 成分の偏心率は、20 ~ 60 % の範囲内にあることが好ましく、30 ~ 50 % の範囲内にあることがより好ましい。ここでいう偏心率とは、次式で定義される。

【数 1】

$$\text{偏心率 (\%)} = \frac{\text{単繊維の中心と芯成分の中心との間の距離}}{\text{単繊維半径}} \times 100$$